

マーケットの動き (2021年12月6日～12月10日)

先週の為替市場は、米ドルは対円で上昇（円安）しました。
新型コロナウイルス「オミクロン型」への過度な警戒感が後退したことや、米国金利が上昇に転じたことを受けて、円売り・ドル買いが優勢となりました。
ユーロは、対円、対米ドルともに上昇しました。

投資環境見通し (2021年12月)

円に対して、米ドル、ユーロともに緩やかに上昇

米ドル：大統領が現FRB（米国連邦準備制度理事会）議長再任の方針を示したことから、改めて来年の利上げ観測が広がっていることに加え、足元で堅調な製造業およびサービス業の景況感から米ドルは円に対して緩やかに上昇するとみています。

ユーロ：ECB（欧州中央銀行）が緩和的な金融政策を続ける姿勢を示す中、欧州地域における新型コロナウイルス感染再拡大から、ユーロは短期的に下押すとみられますが、その後は米国同様にインフレの長期化見通しを背景に長期金利は上昇しやすく、ユーロは円に対して緩やかに上昇するとみています。

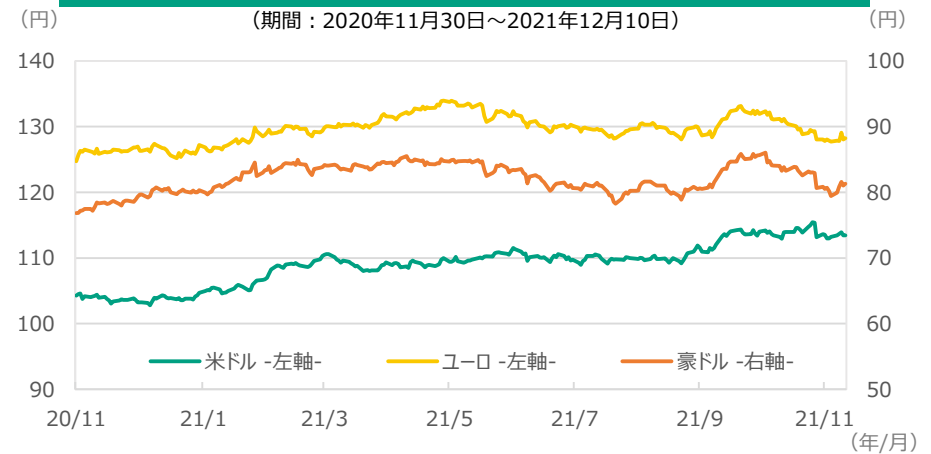
	12月10日	変動幅 (円)			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
米ドル/円	113.43	0.20	▲0.48	3.82	9.02
ユーロ/円	128.22	0.50	▲2.98	▲5.19	1.58

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

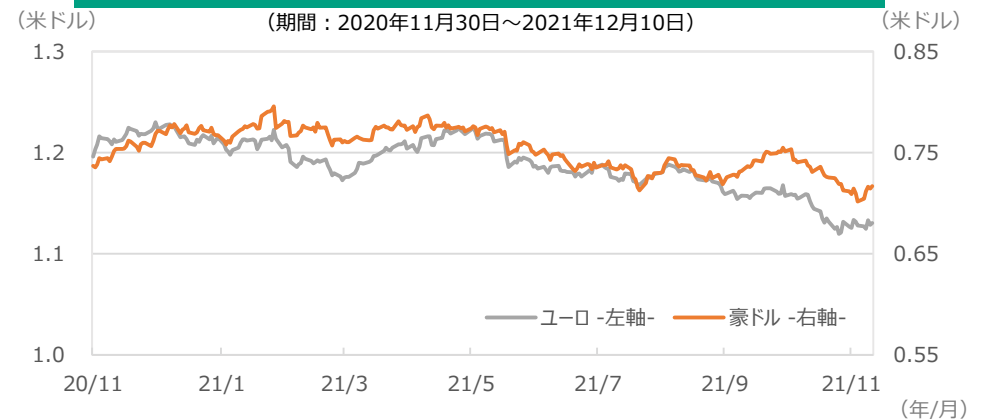
※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202112_outlook.pdf

為替レートの推移 (対日本円)



為替レートの推移 (対米ドル)



※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>